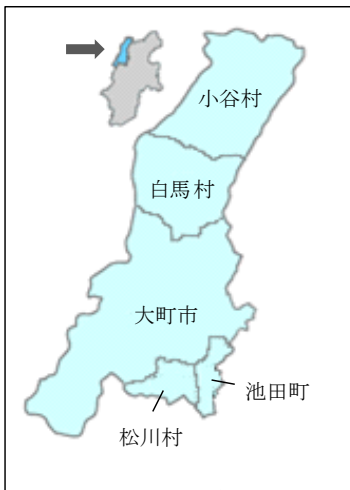


北アルプス地域(大町市、池田町、松川村、白馬村、小谷村)

北アルプス地域の特性

- ・ 3000m級の北アルプスの山並み、その山麓に広がるアカマツや広葉樹林、四季の風景を映す仁科三湖、安曇野の田園風景など、豊かな自然と雄大な景観に恵まれ、これらは地域の宝です。
- ・ 農業、観光業、機械・窯業などの製造業が、地域産業の中心です。農業は北アルプスの豊富な雪解け水を活かした米づくりが盛んです。また、観光面では、立山黒部アルペンルート、HAKUBA VALLEY のスキー場のほか、温泉や美術館、博物館など、豊富な観光資源を有し、年間約 700 万人の観光客が訪れます。
- ・ 地域の人口は 2000 年（平成 12 年）の約 68,000 人をピークに減少し続けており、県内でも少子高齢化の進行が速い地域です。

【管内の概況】



(新潟県)

HAKUBA VALLEY

パウダースノーのスキー場が連なるスノーリゾート。世界水準の滞在型観光地を目指す

小谷村 一緑と雪と温泉のふるさと—
高山植物が咲き誇る梅池自然園や効能豊かな温泉などを有し、ふるさとの山里の風景を今も残す

白馬村 一むらごと自然公園—
スキー・スノーボード、登山などを中心に、年間 200 万人を超える観光客が訪れる国内有数の観光地

立山黒部アルペンルート

扇沢駅から黒部ダム、室堂を経由して富山県立山駅までを北アルプスを貫いて結ぶ山岳観光ルート

(富山県)

大町市

—北アルプスの麓 水が生まれる—
北アルプスの雄大な山々、湖、里山などの大自然に恵まれた山岳観光都市。地域の中心市

松川村

—鈴虫の棲む自然豊かな里—
清らかな水と安曇野の田園風景が育む県内有数の米どころ。男性長寿日本一（82.2 歳、2010 年市区町村別生命表）の村

池田町

—花とハーブの里—
花とハーブを活かした美しい町づくりを推進。日本酒醸造に加え、近年は高品質なワイン用ぶどうを生産

(岐阜県)

北アルプス連携自立圏

圏域 5 市町村は、地方自治法に基づく連携協約を締結し、移住交流や消費生活センターの運営などを連携・共同して実施。県では広域連携推進事業交付金等により取組を支援

鷲羽岳 (標高 2,924m)
槍ヶ岳 (標高 3,180m)

白馬岳 (標高 2,932m)

五竜岳 (標高 2,814m)

鹿島槍ヶ岳 (標高 2,889m)

雨飾山 (標高 1,963m)

妙高戸隠連山 国立公園

梅池自然園

白馬大雪渓

白馬ジャンプ競技場

中部山岳国立公園

大糸線

国営アルプスあづみの公園 (大町・松川地区)

安曇野ちひろ美術館

仁科三湖

大町市役所

大町合同庁舎

池田町役場

ハーブセンター

松川村役場

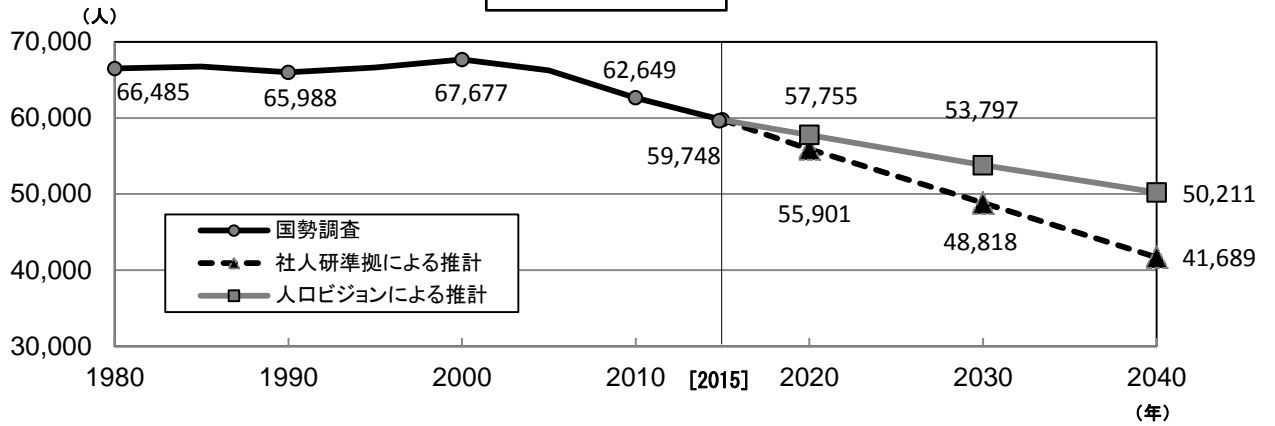
国宝 仁科神明宮

白馬村役場

小谷村役場

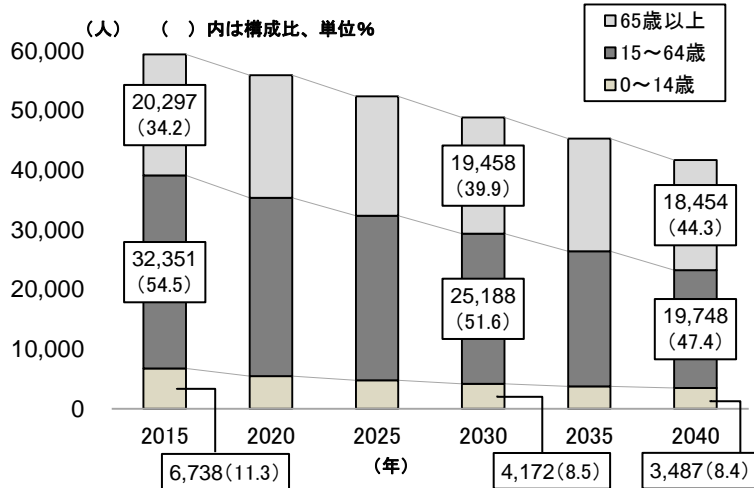
【人口】

人口の推移

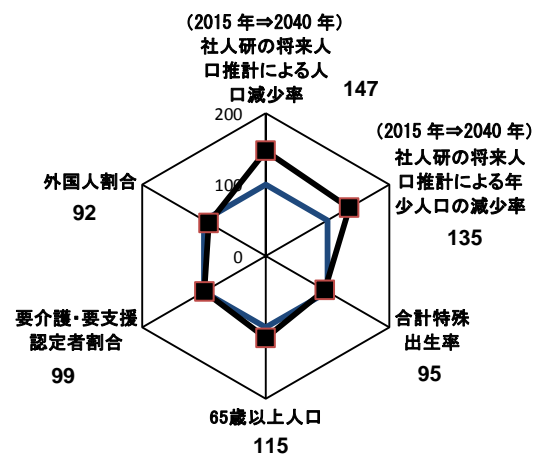


注) 2015年までは国勢調査(年齢不詳者を含む)、2020年以降は社人研準拠推計及び管内市町村の人口ビジョン(地方創生総合戦略)。

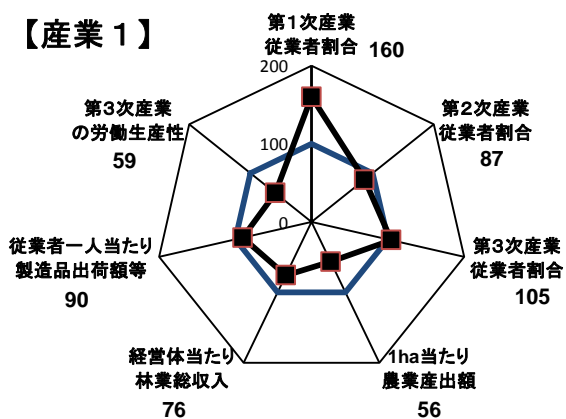
年齢区分別人口の推移



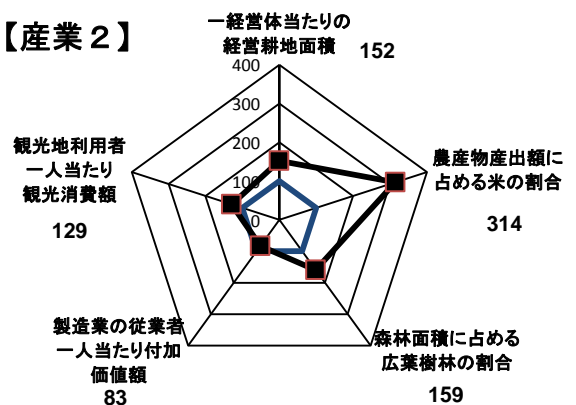
県平均(100)と北アルプス地域との比較



【産業1】



【産業2】



- ・人口減少率、65歳以上人口は県平均を上回り、合計特殊出生率は平均を下回っています。他地域に比べ少子高齢化の進行が速く、社人研の推計では2040年には2015年の7割程度まで人口が減少する見込みです。
- ・農業は稲作が中心のため、農業経営体への農地集積が進み、経営体当たりの耕地面積が大きく、また、森林は多雪地帯のため人工林化が進まず、広葉樹林(天然林)が多く残されています。
- ・米が主力作物であることや人工林が少なく林業事業体の規模も小さい地域特性から、1ha当たり農業産出額や経営体当たり林業総収入は県平均を下回っています。
- ・製造業は下請け型の企業が多く、従業員一人当たりの製造品出荷額等や付加価値額は県平均を下回っています。一方、国内有数の観光地を抱え、利用者一人当たりの観光消費額は県平均を上回る状況にあります。

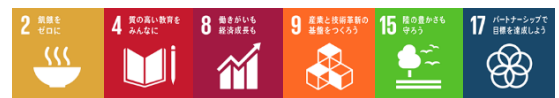
地域のめざす姿

北アルプス地域に「暮らす人」誰もが自信と誇りを持ち、「訪れる人」すべてが感動と喜びを実感できる地域をめざします

北アルプスの雄大な山々と安曇野の田園風景に象徴される、私たちの北アルプス地域は、豊かな自然の恵みと心癒す景観、先人たちの英知と営みにより、地域に根差した産業を育て、人々の暮らしと地域の絆を守ってきました。しかし、地域人口の急激な減少が危惧される中では、人口減少がもたらす様々な影響と向き合い、何よりも「人」を大切にしたい地域づくりに取り組んでいかなければなりません。

地域には、美しい自然環境や先人たちが築き上げてきた農業・観光基盤などの地域の強みがあります。これらを最大限に活かし、ここに「暮らす人」誰もが自信と誇りを持ち、生き生きと働き、安心して暮らせる地域づくり、「訪れる人」すべてが感動と喜びを実感し、多くの人々に再び訪れていただける観光地域づくりに取り組みます。

地域重点政策



〈1〉北アルプスの恵みと人々の知恵を活かした産業の振興

- 〈農〉競争力の高い米づくりを推進するとともに、地域特性を活かした園芸作物の生産振興、ブランド力の向上などにより、米づくりを中心に収益性の高い農業が営まれる地域をつくります。
- 〈林〉林業がビジネス（生産された木材が売れる・使われる）として成り立つ仕組みをつくることにより、循環型林業の構築をめざします。
- 〈工〉地域の強みを活かした製品開発や人材育成の支援により、ものづくり地域としてのレベルアップをめざします。

【現状と課題】

- 〈農〉北アルプス地域は販売農家経営耕地面積の87%を水田が占めるなど、米が主力作物です。平成30年産から米政策の見直しが行われ、稲作農家の収益減少が懸念されるため、競争力の高い米づくりによる収益確保への取組が必要です。
- 〈農〉稲作農家の経営安定には、米だけに頼らない、かつ、水田を活用した園芸作物の導入・拡大による経営の複合化が求められており、土壌条件に応じた作付けへの誘導と栽培技術の普及が必要です。
- 〈農〉新たな地域特産品の掘り起しとそのブランド化、農産物等の「地消地産*」の推進による販売力強化が必要です。
- 〈林〉北アルプス地域の森林面積の66%は広葉樹で、その8割以上が伐採適齢期を迎えています。広葉樹を有効活用する仕組みができれば、地域林業がビジネスとして成り立つ可能性があります。
- 〈林〉松くい虫被害は池田町、松川村から大町市社・常盤地区や標高の高い地域へ拡大傾向にあり、適切な防除対策の推進とともに、被害材の利用促進策の構築が必要です。
- 〈工〉製造業は特色ある技術を持つ企業がある一方で、下請型で経営基盤の弱い企業が多く、付加価値額も減少傾向にあり、企業の「稼ぐ力」の強化が必要です。

【取組内容】

〈農〉米の効率的な生産の推進

- ・ICT*を活用した生産工程管理システムや水田水位センサーの導入促進、高密度播種育苗*等の実証・普及により米の効率的な生産を推進します。
- ・農作業の効率化を図るため、ほ場間の大型機械のスムーズな移動を可能にする水路の埋設化や自動草刈機が走行できる畦畔法面勾配の造成、用水路への自動給水栓の設置など、次世代を見据えた農地整備を推進します。

〈農〉特色ある米づくりの推進

- ・長野県原産地呼称管理制度・信州の環境にやさしい農産物認証制度を活用した、減農薬・減化学肥料栽培の取組拡大に向け、講習会の開催や栽培技術導入効果のPRを通して付加価値の高い米づくりを推進します。
- ・県下一の酒米生産地であり豊富な用水に恵まれた立地を活かし、生産者、酒蔵と連携して、酒米の高品質化に向けた栽培技術（深水管理）の実証・普及や、新品種（山恵錦）の普及に取り組みます。

〈農〉園芸作物の戦略的導入、地消地産の推進

- ・需要が高い、アスパラガスや加工・業務用野菜（ジュース用トマト、タマネギ等）の生産を拡大するため、土壌条件に応じた栽培技術の普及に取り組みるとともに、水稻育苗ハウスを活用したミニトマト等の園芸作物の作付け拡大を推進します。
- ・大町市、池田町で生産されるワイン用ぶどうの高品質化と生産拡大を図るため、栽培技術の向上と生産基盤の整備に取り組みます。
- ・観光宿泊施設等での地域食材の利用を拡大するため、地元生産者が取り組む大町温泉郷や白馬村内での農産物供給体制の構築を支援します。

〈農〉地域特産物のブランド化の推進

- ・商工関係団体やJA等と連携し、新たな地域特産物の発掘・育成に取り組むとともに、北アルプス山麓ブランドを活用した販売促進を支援します。

〈林〉広葉樹林業のビジネス化

- ・信州大学と連携した航空レーザ測量*による資源量（樹種、本数、一本ごとの太さ等）把握技術の確立や、広葉樹材の用途に応じた生産・加工・販売の仕組みを構築するモデル事業の実施により、広葉樹資源を活かした林業のビジネス化に取り組みます。

〈林〉アカマツ材の利用促進と併せた健全な森林の育成

- ・松くい虫の被害材・未被害材の用途に応じた利用促進とともに、更新伐やアカマツ以外の樹種への転換により、効果的な松くい虫被害防除対策を推進します。

〈工〉経営基盤強化による製造業の稼ぐ力の強化

- ・産学官金の連携により、地域資源を活用したヘルスツーリズム関連製品の開発等を推進します。
- ・テクノ安曇野高瀬プロジェクト、北アルプスものづくり連絡協議会等が取り組んでいる技能継承や人材の育成を支援します。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
省力・低コスト技術の導入による水稻栽培面積（北アルプス地域振興局調）	35ha (2017年度)	95ha (2022年度)	高密度播種育苗・直播技術による水稻栽培面積 [農家の動向やJAの目標をもとに設定]
酒米（山恵錦）栽培面積（北アルプス地域振興局調）	6ha (2017年度)	35ha (2022年度)	山恵錦の栽培面積 [現在栽培している「しらかば錦」の全て、「美山錦」「ひとごち」の5%程度を置き換えることとして設定]

加工・業務用野菜栽培面積 (北アルプス地域振興局調)	12.2ha (2016年度)	20ha (2022年度)	ジュース用トマト、タマネギ、キャベツの栽培面積[JA等の目標をもとに設定]
民有林の広葉樹素材(木材)生産量 (北アルプス地域振興局調)	1,600m ³ (2012～2016年の 生産量から算出)	2,400m ³ (2022年)	広葉樹素材(丸太等)の生産量 [過去5年間(2012～2016年)の生産量 から算出した値に施策推進による増産 分を加算し設定]
民有林のアカマツ素材(木材)生産量 (北アルプス地域振興局調)	3,900m ³ (2012～2016年の 生産量から算出)	8,900m ³ (2022年)	アカマツ素材(丸太等)の生産量 [過去5年間(2012～2016年)の生産量 から算出した値に施策推進による増産 分を加算し設定]
製造業従業者一人当たり付加価値額 工業統計調査(経済産業省)	9.3百万円 (2015年)	10.5百万円 (2022年)	付加価値額を従業者数で除した値 [県全体の伸び率を参考に設定]



〈2〉四季折々に訪れ、北アルプスと安曇野の自然を満喫できる観光地域づくり

四季を通じて多くの観光客が訪れ、その誰もが安心して快適に時を過ごし、喜びと感動に満ちた体験ができる観光地をめざします。

【現状と課題】

- ・最近10年間の観光客数は、冬期(12～3月)は約250万人、春～秋期(4～11月)は約450万人前後で推移しています。グリーンシーズン、特に観光客が減少する春・秋の誘客への取組が必要です。
- ・高齢化等の社会環境の変化や、多様化する旅行者ニーズへのきめ細かな対応が求められています。
- ・外国人宿泊者数は近年、増加傾向にあり、更なる誘客や管内への回遊促進に向けた、多彩なサービスの検討、提供が必要です。

【取組内容】

● サイクルツーリズムの推進

- ・北アルプスの絶景や安曇野の田園風景を楽しめるモデルコースを設定し、市町村と連携して自転車に配慮した道路環境の整備を推進します。
- ・地域全体でサイクリストを歓迎する気運を高めるため、サイクルスポーツへの住民理解の促進や運転マナー向上等に取り組めます。また、白馬村、小谷村を中心に進められている「サイクルステーション*」の取組を地域全体に広げ、受入態勢の充実を図ります。
- ・大都市圏の自転車イベントへの出展やSNSを活用し、北アルプス地域の魅力や走る楽しさ、モデルコース等の情報を発信します。
- ・隣接する日本海エリアや県内他圏域と連携し、広域モデルコースの設定やイベントへの出展、情報発信等に取り組み、広域的なサイクルツーリズムを推進します。

● ユニバーサルツーリズム、ヘルスツーリズム、体験型観光の推進

- ・高齢者や障がい者など、誰もが安心して快適に旅行できる観光地づくりに向けた受入態勢の整備などを観光団体等とともに検討し、その取組を支援します。
- ・豊富な温泉や森林セラピー基地、特産のハーブを活用したヘルスツーリズムの推進、自然や農業、食文化等の地域資源を活かした、農家民泊をはじめとした体験型観光の強化などの取組を支援します。

● インバウンド*対応の促進

- ・地域DMO* ((仮称) HAKUBA VALLEY プロモーションボード) の設立・運営や、インバウンド向

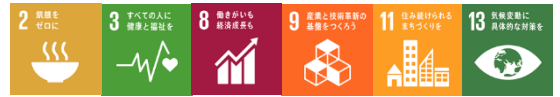
けサービスの充実に向けた市町村等の取組を支援します。

● 登山道や街並み整備の推進、山岳環境の保全

- ・市町村や山小屋組合等が実施する登山道の整備や、多言語標識の設置を支援します。
- ・大町市内の歴史ある建物を活かした、まちなかへの誘客に向けた取組を支援するとともに、白馬エリアの玄関口である白馬駅前は無電柱化を核とした景観・環境整備に住民と協働して取り組みます。
- ・北アルプス高山帯等の植生や生態系を守り、観光客の安全を確保するため、野生鳥獣の高標高地への侵入状況や被害を把握し、関係機関と連携して防除対策に取り組みます。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
観光地延利用者数 観光地利用者統計調査（観光部調）	702 万人 (2012～2016 年の平均)	724 万人 (2022 年)	観光地の延べ利用者数 [過去5年間（2012～2016年）の平均にグリーンシーズンの伸びを加算し設定]
グリーンシーズン（4～11月）観光地利用者数	446 万人 (2012～2016 年の平均)	468 万人 (2022 年)	観光地の4～11月の延べ利用者数 [過去の伸び率を参考に設定]



〈3〉生涯を通じて健康で、安心・安全に暮らせる地域づくり

〈健・医・福〉保健医療と福祉の充実により、暮らす人すべてが、住み慣れた環境の中で生涯を通じて健康で生き生きと暮らせる地域をめざします。

〈防〉住民の力を活かした地域防災力の向上により、誰もが安心して暮らし、訪れる地域をつくりまします。

【現状と課題】

- 〈健〉三大死因別死亡率では、男性は悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、女性は心疾患が県平均よりも高くなっています。また、平成26年度の特定健診結果では、糖尿病につながるおそれがある空腹時血糖値、ヘモグロビンA1cの値が基準値を超える割合が男女ともに県平均を上回る状況です。
- 〈医〉国指定のがん診療の拠点病院がなく、がん患者の他医療圏への流出率は10圏域中2番目に高く、松本医療圏に依存しています。また、出産や脳血管疾患に対応する医療体制の充実が必要です。
- 〈福〉介護福祉施設では人材の確保に苦慮しており、高齢化に伴う要介護者の増加が見込まれる中、介護人材確保に向けた圏域全体での取組が求められています。
- 〈防〉糸魚川・静岡構造線上に位置し、30年以内の震度6弱以上の地震発生確率は、池田町、松川村は22%、大町市は14%と推計*されています。急峻な地形、脆弱な地質から大規模な土砂災害が発生しやすい状況にあります。 *出典：地震ハザードステーション2016年版（防災科学技術研究所）

【取組内容】

〈医〉がん対策の推進

- ・北アルプス医療センターあづみ病院がめざす、地域がん診療病院*指定への支援や、病院、医師会等と連携したがん診療研修会の開催支援などにより、大北医療圏全体のがん対策を推進します。

〈医・福〉医療・介護人材の確保

- ・医学生、研修医等を対象にした症例検討会をはじめとする、市立大町総合病院等が取り組む医師招へい事業の支援や、北アルプス地域を訪れる医療関係者に対する病院・地域の魅力発信等に取り組みます。
- ・大北圏域介護保険事業者連絡協議会や市町村と連携し、首都圏での合同職場説明会、高校生への介

護職場の魅力アピールなど、介護福祉施設の人材確保の取組を支援します。

〈健〉生活習慣病予防対策の推進

- ・糖尿病など生活習慣病の予防に向け、市町村、関係団体等の食育活動への支援や、運動指導者のスキルアップ、アドバイザー派遣による運動習慣の定着に取り組みます。

〈防〉住民の力を活かした地域防災力の向上、観光地の防災対策の強化

- ・神城断層地震の経験を活かして、住民自らが災害発生時に適切に対応できるよう、自主防災組織研修会や避難所運営訓練、災害時住民支え合いマップの策定などを支援し、地域防災力の向上に取り組みます。
- ・立山黒部アルペンルートなど観光地の被災時に備え、関係自治体や事業者と連携して、災害時における情報共有・伝達の方法や避難対策を検討し、防災対策の強化を図ります。

〈防〉砂防施設等の整備、緊急輸送路の防災機能の強化

- ・土砂災害から地域住民の生命財産を守る砂防施設等の整備を進めるとともに、災害時の物資輸送等を確実にするため、落石対策など緊急輸送路の防災機能強化に取り組みます。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
がん患者の大北医療圏からの流出状況 (健康福祉部調)	35% (入院) 24% (外来) (2015年度)	31% (入院) 21% (外来) (2022年度)	がん患者の大北医療圏からの流出割合 [がん診療体制の充実により、現状から1割抑制を目標に設定]
災害時住民支え合いマップ策定地区数 (大町保健福祉事務所調)	159地区 (2017年度)	230地区 (2022年度)	災害時住民支え合いマップ策定済みの地区数 [管内全地区の策定を目標に設定]



〈4〉北アルプス地域を選び、生き生きと活動できる地域づくり

「暮らす人」誰もが自信と誇りを持ち、生き生きと暮らし活動できる仕組みづくりを通して、移住・Uターン・定住しやすい地域をめざします。

【現状と課題】

- ・急激な人口減少や少子高齢化が懸念される中、地域コミュニティや産業・生活環境を維持して行くためには、人口減少への歯止めとともに、必要な人材の確保や次代を支える若者が地域に就職・定着できる環境や仕組みづくりが必要です。
- ・地域への移住者（外国籍を含む）は増加傾向にありますが、地域おこし協力隊員の任期終了後の定着も含め、移住希望者や地元出身の若者に選ばれる地域となるための取組が求められています。
- ・高齢化率は県平均を上回るものの、男性の平均寿命日本一*の松川村など元気な高齢者が多い地域であり、人生100年時代を見据え、元気な高齢者が活躍できる仕組みづくりが必要です。

*出典：2010年市区町村別生命表（厚生労働省）

【取組内容】

● 若者の定住・定着支援、地域を支える人材の確保

- ・デュアルシステム*等による就業体験など、学校が取り組むキャリア教育の充実を支援し、若者の地域への就労を促進します。
- ・地域外に進学した学生に企業情報や就職情報を提供する取組を支援し、地元企業等へのUターン就職を促進します。

- ・若者が地域を学び地域への愛着を深める機会の提供等を通して、将来にわたり地域を支える人材の育成を推進します。
- **地域おこし協力隊員の定着支援**
 - ・協力隊員の交流や円滑な活動、任期終了後の定着を支援する交流・相談会の開催や、地域全体で起業や就業をサポートする環境づくりに取り組みます。
- **北アルプス連携自立圏と連携した移住・定住の推進**
 - ・北アルプス連携自立圏の広域移住相談体制の整備や、移住セミナー開催等の取組を支援するとともに、様々な機会や媒体を通じて、北アルプス地域で暮らし、働く魅力を市町村と連携して発信します。
- **外国籍住民が暮らしやすい環境整備の推進**
 - ・北アルプス地域で増加傾向にある外国籍住民が安心して暮らせる相談体制や情報提供の充実など、市町村等の取組を支援します。
- **高齢者の社会参加の推進**
 - ・シニア活動を応援する団体等を登録・紹介する仕組みづくりや、活動の場を求めるシニアと活動の場を提供する団体等のマッチングに取り組み、高齢者の社会参加を進めます。

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
移住者数 (企画振興部調)	161人 (2016年度)	224人 (2022年度)	新規学卒Uターン就職者や数年内の転出予定者などを除く県外からの転入者 [県全体の目標をもとに設定]



〈5〉 地域を支える松本系魚川連絡道路の整備

北アルプス地域と松本地域や糸魚川地域とを結ぶ地域高規格道路の調査検討・整備を進め、地域経済の活性化と地域住民の利便性の向上をめざします。

【現状と課題】

- ・高速交通ネットワークの空白地帯であり、高速道路へのアクセス性が低いことが、企業誘致や観光誘客、重篤患者の救急搬送の上で課題となっています。
- ・大町以北の国道148号で事故や雪による交通障害が発生した場合、広範囲に影響が及ぶため、災害に強い道路環境の早期整備が必要です。

【取組内容】

- **松本系魚川連絡道路の整備推進**
 - ・安曇野市～大町市街地南の現道活用区間及び大町市街地区間の調査・検討を推進します。また、松本系魚川連絡道路と同等の規格により、国道148号小谷村雨中バイパス、白馬村白馬北工区の整備を推進し、早期完了に努めます。